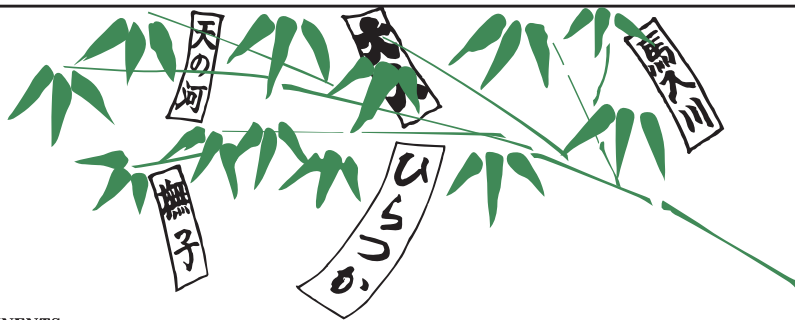




2010～2011年度 国際ロータリーテーマ
BUILDING COMMUNITIES BRIDGING CONTINENTS
地域を育み、大陸をつなぐ



HIRATSUKA R.C. WEEKLY

- 会長 桐本美智子 ●副会長 小飯塚立雄 ●幹事 柏手 茂 ●会報委員長 工藤光和 (2010～2011年度) E-mail:hiraturc@ma.scn-net.ne.jp
- 例会日 毎週木曜日 12:30～13:30 ●会場 グランドホテル神奈中 平塚2F ●事務局 平塚市松風町2-10 平塚商工会議所内
- 四つのテスト 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

第2774回 2011年2月3日 グランドホテル神奈中 週報第2774号

本日の卓話者ご紹介

(株)ランナーズ・ウェルネス 代表取締役

坂本雄次様



卓話

～税金を使わない地域振興策～

(株)ランナーズ・ウェルネス

代表取締役 坂本雄次

第5回を数える湘南国際マラソンが好天下の湘南海岸で全国から23,500人の参加者を迎えて開催された。大磯プリンスホテルを発着点としたこの大会は2007年から県下初のフルマラソンとして始まったが、大会立ち上げには主催をどこにするか？協力機関は？資金はどう調達するか？など数多くの難関・課題を解決しなければならなかった。

今、国内で開催されている多くのランニング大会はすべてとっていいほど自治体が地域振興や観光振興などを名目に地域活性化の手段としておこなわれている。数千人から1万人規模の大会になると参加者募集から各種の許可取り、レース運営全般や式典進行などランニング

スポーツを取り巻くあらゆる事柄に精通した技術・知識・ネットワークが無ければ運営ができないため、開催に当たっては専門会社に委託しないと実現できないことも現実である。すると当然のことながら開催原資が必要となり、そこに税金の投入が発生してくるし、地方行政を運営する自治体は目的と生み出される効果を試算して必要な予算を組んで大会開催を目指すのである。

湘南国際マラソンは、立ち上げ当初から1万人以上の規模を目指していたため、大会予算も2億円近いものが想定され、参加料を差し引いても相当額の予算原資が無ければ開催は難しい状況だった。大会に係る自治体は3市2町あったが、このマラソンに予算を割くことはなかなか難しかった。広く国内の状況を鑑みると将来的には地域振興のために多額の税金を充てることができなくなる時代が来る、と判断し、一切税金を使わない大会を目指すことにした。結果、大きな赤字が発生することになったのだが、湘南を象徴するスポーツ文化の種を蒔くことはそれ以上に意味あることだったと今でも思っている。

観光・商業・工業・一次産業など広く産業が振興してゆかないと活気ある地域づくりはできない、と思っている。私たちが在野で活動する民間は当然生活もしなければならぬし、商行為を生業とする事業者は営利追求もしてゆかなければならない。ただ営利追求一辺倒に偏った考え方で事業に取り組んだならば必ずや不平や不満、軋轢が起り事業側にもそれを受け利用する側にもアンバランスが発生し持続性を欠くことになるだろう。

現代社会は政治も企業も教育も人心も急激に無機化してきている。これは今の日本が最大の危機として捉え迅速に手を下さなければならぬ喫緊の課題。生活民や地域は健康で不安のない健やかな生活を求めている。急進

<出席報告>

本日 2月3日	会員数 60名	対象者 55名	出席者 45(42)名	出席率 76.36%			
前々回 1月20日	会員数 60名	対象者 55名	出席者 39(35)名	出席率 63.64%	MUP 5名	計 40名	修正率 72.73%

する高齢化社会にあっては一人でも多くの「元気な年寄りづくり」を目指し、一人でも多くの「情操豊かなこどもづくり」をしてゆかなければならない。私たちは官ができない、思いつかない切り口で地道に地域と人づくりにスポーツを通じてお役に立てれば幸甚と思って微かな活動を続けてゆきたいと思っている。

坂本雄次様プロフィール

1947年 神奈川県茅ヶ崎市生まれ。ランニングプロデューサー。

30歳のとき、健康（ダイエット）のため自分でランニングをはじめ。

在籍していた東京電力の陸上部で監督を15年間務め、素人集団の中からフルマラソンを2時間30分台で走るランナーを数多く育てる。

1993年7月

「100kmウルトラマラソン」などのランニング大会を企画・運営する㈱ランナーズ・ウェルネスを設立。

日本テレビ「24時間マラソン」には1992年の立ち上げから携わっている。2007年3月には神奈川県初となるフルマラソン「湘南国際マラソン」を立ち上げる。

また「間寛平さんの地球一周アースマラソン」のサポート活動も2008年スタート時から行っている。

著書に、「ゼロからのフルマラソン」（祥伝社新書）AIMS公認距離計測検定員。

国際スパルタスロン協会日本支部代表。（社）日本ウルトラランナーズ協会理事。

<委員会報告>

●新世代委員会 清水 裕委員長

【第41回平塚市少年少女マラソン大会開催について】

本日が参加申込の締切日となっております。ご協力よろしくお願ひ致します。

<幹事報告>

◎第7回IA合同会議開催のご案内

日時：2/12(土) 15:00～16:30

場所：藤沢産業センター6F

いまさら聞けないロータリー知識 6

<インターアクトとローターアクト>

インターアクトクラブ（Interact Club、IAC、IC）は、ロータリークラブにより提唱された、14歳から18歳までの青少年または高校生のための社会奉仕クラブである。日本においては、高等学校の福祉・ボランティア系のクラブ活動（部活動）・サークルとしておかれることが一般的であるが、高校に属さない「地域クラブ」として活動するクラブもある。

奉仕の精神と国際理解を青少年（新世代）に付与するため設立され、提唱クラブは、指導・助言・監督の責任をもっている。同様の趣旨で、18歳から30歳の若人のためのプログラムとして、ローターアクトクラブがある。両アクトは、ロータリー直営の青少年奉仕活動プログラムである。

当クラブは、1992年（平成4年）に平塚南ロータリークラブとともに平塚学園のインターアクトクラブを提唱した。

<メイクアップ>

5名

滝口、鶴井、鳥海、水越、柳川
各会員

<本日のスマイル>

17名

<ゲスト>

2名

坂本雄次様（卓話講師）
木村陽菜様

<卓話・行事予定>

2月17日（木）動物博士・作家・たまご博士

吉村卓三様

24日（木）→26日（土）IMへ振替

会場：平塚農協ビル「プレジール」

3月 3日（木）会員健康診断

10日（木）大山阿夫利神社宮司 目黒 仁様

17日（木）報徳二宮神社 報徳会館支配人

草山明久様

<市内例会変更>

平塚南

2/18(金) 夜間例会→通常例会